

今年2月、約4年に及ぶ研究の集大成として、単一人工原子レーザーの開発に世界で初めて成功した。微小な半導体粒子である人工原子を、たった1個だけ埋め込んだ究極の極小レーザーである。荒川泰彦教授らと共に英科学誌ネイチャー・フィジクスに論文を発表し、その第1著者の名が世界に知れ渡った。



東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任助教

野村 政宏氏

極微の世界を操る逸材

小学生のころから空や宇宙などの自然にひかれ、中学生になると物理法則に興味を持ち、迷わず物理の世界へ。修士課程在学中に約1年間留学したスイスでは、研究の実績を積むとともにフランス語を習得した。異国で多様な価値観に触れ、自分の人生は自分で切り開こうと決意する。

博士号取得後は荒川教授に自ら働きかけ、世界トップレベルにある荒川研究室に雇われる。着任前から日夜実験に励んだ努力が報われ、大きな成果を出して教授の期待にも応えた。国際学会からは招待講演の依頼も多い。東大生え抜きで、順風満帆のように見えるが、「本人は必死なんです」。研究で煮詰まった時は、趣味のジョギングで気分を一新するという。

物理学の研究には、物理を極める方向と製品化を目指す方向がある。糧やかな語り口ながら、「物理の極限を追究する研究では、ほかの研究者に負けるわけにはいかない」と闘志を燃やし、人類未踏の極微の世界へ挑む。「人に教えることも大好き」と話すその表情には、教育者を目指す気概ものぞく。

(藤木信穂)

のむら・まさひろ 00年(平12)東大工学部卒、05年東大大学院物理工学専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員を経て、07年より現職。フォトニクス結晶に関する国際会議から「ファーストプレスアワード」受賞(07年)。東京都出身、32歳。工学博士。